

都立高校の

魅力向上等に係る懇談会  
(第 3 回)

令和 8 年 3 月 3 日

# 1 グローバル化やデジタル化等に対応できる人材づくり

- ・ 専門部会における検討内容の報告
- ・ 都立工科高校における取組説明（東京のまちづくりに係る人材育成）

# 2 多様な生徒を確実に支えるしくみづくり

# 3 都の動き

- ・ 「新たな教育のスタイル」について

# 4 意見交換

- ・ 「都立高校に求められる役割」について

# 1 グローバル化やデジタル化等に対応できる人材づくり 専門部会における検討内容の報告

# 都立高校の魅力向上等に係る懇談会専門部会の設置

## 設置目的

懇談会から検討指示を受けた事項について、専門的見地を有する委員の意見を踏まえ検討を行い、とりまとめ結果を懇談会へ報告

## 実施概要

委員	明海大学教職課程センター 地域学校教育センター 教授 東京都立大学経済経営学部 教授 都立大田桜台高等学校 校長 都立芝商業高等学校 校長 港区教育委員会 教育人事企画課長 青梅市教育委員会 指導室長 ※ 部会長は東京都教育庁高校改革推進担当部長及び教育改革推進担当部長が務める	米村 珠子 松岡 多利思 小川 孝 山田 和人 大久保 和彦 宇野 賢悟
検討事項	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 国際金融やハイレベルの英語を学べる高校づくり</li><li>・ デュアル(英語と日本語を使う授業の実施)のIB教育の展開</li></ul>	
実施日	第1回 令和7年12月15日(月) 「グローバル化や国際金融等の視点から、商業高校の魅力化・特色化について検討」  第2回 令和8年 1月19日(月) 「商業高校における国際金融教育とIB教育の効果的な実施方法について検討」	

# 都立高校のビジネス科（商業科）について

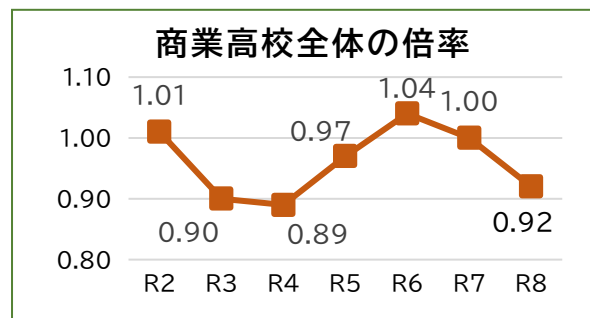
## 現状等

- ✓ 平成30年度より商業科をビジネス科に改編し、ビジネスを実地に学ぶ機会を拡充
- ✓ 入学者選抜では、商業高校全体の倍率は1倍前後で推移
- ✓ 進路実績では、就職者は減少、大学・短大への進学者が増加

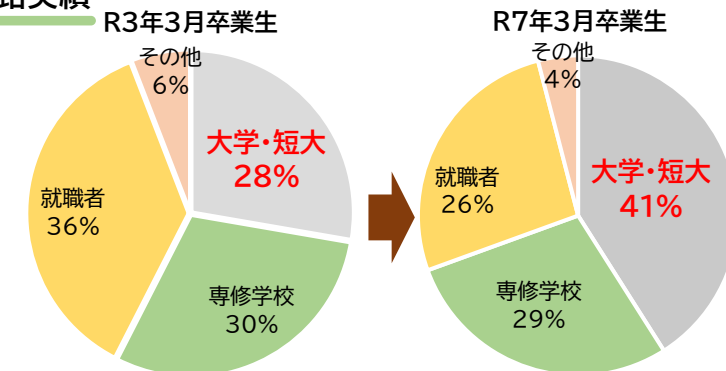
## ビジネス科の取組例

- ◆芝商業  
模擬株式会社「芝翔」を設置し、実際の企業と連携 等
- ◆第一商業  
渋谷の企業と連携した地域課題解決の取組を実施 等
- ◆第五商業  
企業と連携した国立ブランドの製品の製作・販売 等

## 入学者選抜状況



## 進路実績



※「入学者選抜状況」及び「進路実績」は、商業高校全体(ビジネス科7校及びビジネスコミュニケーション科2校)の数値

## 委員の主な意見

- ・ 商業教育は単なる資格の取得にとどまらず、**地域や地元産業などと連携した実践的なビジネススキル**を学ぶことが重要
- ・ 商業高校では、**実際の企業等での専門的なビジネススキル**を学べるが、そうした**有用性が中学生に十分に伝わっていない**
- ・ **進学志向の高まりを踏まえ、大学進学後の学びに必要な学力やスキルを育成する取組を推進すべき**
- ・ **高校での学びと社会が必要とする高度なビジネススキルを結び付け、具体的なキャリアに生かせる取組を重視する教育が重要**

# 国際金融教育の必要性

## 現状等

- ✓ 東京都では「国際金融都市・東京」の実現に向けて、「2050東京戦略」に基づき様々な取組を各局で実施
- ✓ 中・高校生対象のSNSアンケートによれば、「お金に関すること(経済、金融、投資、資産運用)」を学びたいというニーズが高い

### 【東京都の取組】「2050 東京戦略～東京もっとよくなる～」要約

#### ■ 「国際金融都市・東京」の実現に向けて金融関連プレイヤーの裾野拡大

- ✓ 国際金融人材育成の取組例

都立大学「国際金融人材育成特別プログラム」  
金融専門知識とビジネスレベルの英語力を涵養する特別プログラムを実施

#### ※ 国際金融人材像

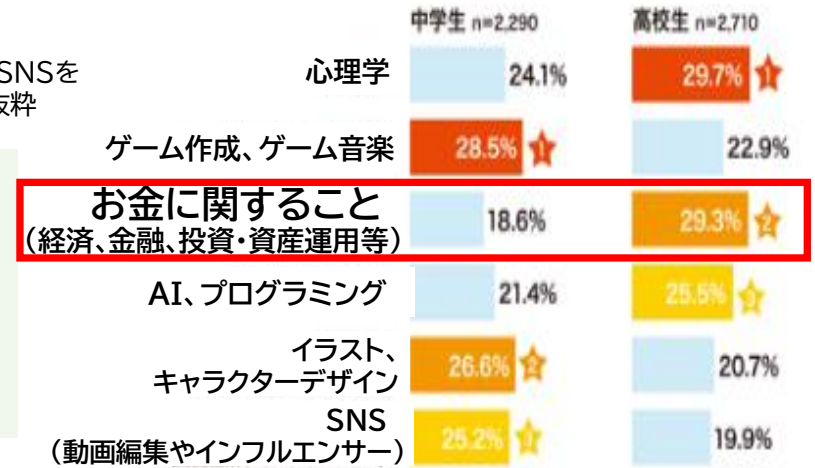
- ・ 環境や社会の取組を金融の視点で評価できる人材 【ESG・サステナビリティ】
- ・ 金融×デジタルを理解しデータから価値を生む人材 【FinTech・データ分析】
- ・ 世界の金融プレイヤーと対等に議論できる人材 【ビジネス英語】

### 【中・高校生のニーズ】

子供政策連携室 令和7年度 第3回SNSを活用したアンケート(中高生版)より抜粋

#### 【調査の概要】

- (1)調査対象  
東京都在住もしくは在学の13歳から18歳
- (2)回答者数  
15,000人



✓ 高校生の学びたい分野に関するアンケートでは、「お金に関すること(経済、金融、投資、資産運用等)」が29.3%と高い関心を集めている。

## 委員の主な意見

- ・ 日本人の金融リテラシーは世界で相対的に低い状況。世界で必要とされる高い金融知識を身に付けるには、金融教育を早期から行うことが重要
- ・ 世界で通用する国際金融学を大学で学ぶためには、高校において、英語力とともに、数学の知識や思考力を育成することが必要
- ・ 国際金融の観点からは、グローバルな視点で他国の経済状況を理解し、課題に気付く姿勢が重要

# 商業高校における国際金融教育の実施について

## 現状等

- ✓ 都立高校における金融教育は、公民科・家庭科等の教科で実施しているが、内容は基礎的な金融リテラシーが中心
- ✓ 商業科目では、金融や経済の仕組みの学びの中で国際金融の基礎的な内容も扱うことができる仕組み

## 商業科目と金融教育の関係性

### 金融の教科横断的な学び(例)



### 商業科目における金融教育(例)

商業科目 (例)	金融教育との関連
ビジネス基礎【必履】	経済構造・企業活動の理解・金融の働き 等
財務会計	資金管理・財務の基礎 等
情報処理	FinTech・デジタル金融に応用 等
マーケティング	市場分析は投資判断と関連 等
ビジネス法規	契約・権利は金融取引の基盤 等
グローバル経済	国際金融・国際経済の理解 等
課題研究【必履】	社会課題についての調査・研究、実験・実習 等

## 委員の主な意見

- ・ 商業高校の金融教育を一層強化・充実させ、データや根拠に基づいて数学的な思考をめぐらし、経済動向を把握する力等を備えた国際金融人材の素養を育成することは重要
- ・ 金融教育については、個人の資産管理といった基礎的な金融リテラシーの内容とグローバルな国際ビジネスの内容の両方が必要
- ・ 国際金融教育を学ぶことを通じて、グローバルな視野を広げることで、「地域から世界へ」活躍の幅を広げることが重要

# IB教育について

## 現状等

- ✓ 国際高校にIBコースを設置し、英語による議論・討論、探究型の授業などの特別な教育課程を編成することで、生徒が海外大学等への進学を実現
- ✓ 国内外でIB認定校が増加しているが、都立でIB教育を実施しているのは国際高校のみ
- ✓ 国際高校では英語DPを実施しているため、高校入学段階でネイティブ並みの高い英語力が必要不可欠 ※英語DPは、全てのプログラムを英語で履修

## 国際バカロレア教育の概要

### ○ 国際バカロレアの仕組み

国際バカロレア機構(スイス・ジュネーブ)から認定を受けた学校(IB認定校)で、DP(ディプロマ・プログラム)課程を修了し、最終試験に合格した生徒に、海外大学への進学資格を付与する。

### ○ DPのカリキュラムの概要(コア3科目) 文部科学省 IB教育推進コンソーシアム資料より抜粋

「知の理論」(TOK)	多様性や国際理解を深めて偏見を正し論理的思考力を育成
「創造性・活動・奉仕」(CAS)	経験や体験活動により社会性を獲得
「課題論文」(EE)	生徒が研究課題を設定して、自ら調査・研究して論文を作成

※上記に加え、理科、数学、外国語等6つの教科を学習

## 国際高校IBコースの状況

- ・IBコース募集人員:25人
- ・IBコース応募倍率:おおむね4~6倍程度(R4~8年度)
- ・IB資格取得率:ほぼ100%
- ・海外大学合格者数:延64人(R6卒業生)

都立国際高校HPより



## DP認定校の広がり

文部科学省 IB教育推進コンソーシアム資料より抜粋

	2015年	2025年
世界	2,914校	3,897校
日本	26校	79校

(日本語DP導入開始)

(日本語DP40校)

※本数値は2025年12月時点

【デュアルランゲージ・ディプロマ・プログラム(日本語DP)】  
主に日本語で履修し、IB資格を取得できるプログラム  
※最大でコア3科目と選択科目の3分の2を日本語で履修が可能

## 委員の主な意見

- ・ **IB教育では、教科書で学ぶことのできる知識をさらに深化させ、様々な知識との融合を図り、他者との批評等を通じながら深く探究する学びを重視しており、こうした学びを国際金融を学ぶ生徒にも取り入れることは重要**
- ・ **グローバル人材の育成には、国際的な視野を持つ人材の育成を目指すIB教育の手法が効果的**
- ・ **IB教育においては、指導者の育成と確保が必要となるが、日本語DPであれば英語DPよりもハードルが低い**

# 専門部会における議論のまとめ

- 【検討事項】
- ・ 国際金融やハイレベルの英語を学べる高校づくり
  - ・ デュアル(英語と日本語を使う授業の実施)のIB教育の展開

## 1 国際金融教育の必要性

- ・ 「国際金融都市・東京」の実現に向け、高校段階からの国際金融教育は有効
- ・ 中高生の「経済・金融・ビジネス」分野への関心の高さを踏まえ、金融・経済等を体系的・実践的に学べる機会が必要

## 2 商業教育の特色化

- ・ 進学志向の高まりの中で、大学進学後にも通用する力の育成
- ・ 基礎的な金融リテラシーを中心とした学びに加え、商業科目を活用した国際金融教育の充実を図ることが重要
- ・ 社会変化に対応した新たな取組を推進し、商業高校の魅力を強化

## 3 商業高校における国際金融教育

- ・ 簿記・会計・マーケティング・情報処理など金融教育と直結する教科が多く、体系的・段階的に学習可能
- ・ 商業高校で金融・経済分野等の教科横断的な学びを実践的に実施し、新たなブランドを確立することが必要

## 4 IB教育(特に日本語DP)の展開可能性

- ・ 国際的視点に立ったディスカッションを重視するIB教育は、金融を通じて世界の諸課題に向き合う国際金融を学ぶ上で有効
- ・ IB教育の展開にあたっては、より多くの生徒が挑戦しやすい環境整備に繋がるよう、日本語DPを導入

- ・ 商業高校の魅力向上に向け、国際金融教育を軸とした「世界とつながる学び」の充実
- ・ 国際金融教育の効果的な展開には、IB教育(日本語DP)の活用も有用

# 1 グローバル化やデジタル化等に対応できる人材づくり

## 都立工科高校における取組説明（東京のまちづくりに係る人材育成）

# 都立工科高校と産業の団体との連携推進協議会（開催概要）

## 開催日時・構成メンバー

日時：3月2日(月) 11時から12時

メンバー：

団体名 役職	氏名
日本建設業連合会 会長	宮本 洋一
東京建設業協会 会長	乗京 正弘
東京都中小建設業協会 会長	渡邊 裕之
東京都教育委員会 教育長	坂本 雅彦
東京都技術会議 座長 東京都技監	谷崎 馨一
東京都産業労働局長	田中 慎一
国土交通省 技監(オブザーバー)	廣瀬 昌由

## 協議会設置の目的

都立工科高校と建設業等の産業の団体が連携し、**技術人材の育成**や**業界・工科高校双方の魅力向上**に向け、課題や取組の方向性について意見交換を行うため設置

## 背景(現状認識)

- 建設業界では、有効求人倍率が**高水準**となっている
- 一方、都立工科高校では、入学者数が**定員を下回る**状況
- 卒業後の建設業就職は全体の**約4分の1**程度

## 第1回協議会で共有した主な論点

### 【産業の団体の一層のイメージアップに向けた取組】

- 保護者世代を含めた**イメージ転換**に向け、**小中学生段階からの職への意識づけ**、**進路モデルの発信**や**女性が働きやすい職場環境づくり**など、産業の団体の魅力が伝わる取組が重要である。

### 【産業の団体に対し、より有為な人材輩出のできる連携施策】

- 即戦力人材の育成に向け、**カリキュラム**や**指導体制**、**インターンシップ**、**出前講座**、**教員による最新の技術等の習得**、**資格取得**に係る取組等について、産業の団体と連携した施策を検討していく必要がある。

## 今後のスケジュール

- 第一回の議論を踏まえ、**年度明け**できるだけすみやかに**事務レベル**で東京都と産業の団体との**連携案**を協議

# 都立工科高校の広報の実施と成果

～中学生・保護者層への認知向上～

## 新聞全面広告（朝日新聞、読売新聞、日本経済新聞）

- ▶ 第一弾：1月23日朝刊
- ▶ 第二弾：2月10日・2月11日朝刊

その答えは、  
都立工科高校の  
中にある。

【問題】AIにはできない仕事とは何か？

建設や交通の仕事は、  
社会インフラの整備・安全・暮らしを支える機軸。  
AIでは代替できないプロフェッショナルな仕事です。  
「東京を一層につけていく」その一歩を、  
都立工科高校で踏み出しませんか？

未来をつくる  
力が身につく  
都立工科高校

都立高校入試 インターネットによる出願 2月5日(木)まで

東京都教育委員会  
Tokyo Metropolitan Board of Education

## SNS・WEB広告（Google、Yahoo、LINE）

- ▶ 配信期間：1月25日～2月13日
- ▶ 成果：約42万件（418,327クリック）

問題 AIにはできない仕事とは何か？

その答えは、  
都立工科高校の  
中にある。

都立高校入試 | インターネットによる出願 2月5日(木)まで

Google/Yahoo(保護者向け)

知識 × スキル × 資格を獲得する3年間。

どんな時代にも  
求められる人材に。

知識 × スキル × 資格を獲得する3年間。  
どんな時代にも  
求められる人材に。

都立高校入試 | インターネットによる出願 2月5日(木)まで

LINE(中学生向け)

## 2 多様な生徒を確実に支えるしくみづくり

# 多様な生徒を支える学校の設置状況

## チャレンジスクール（7校）〈定時制・総合学科・単位制〉

- ・ 昼夜間定時制の中でも、特に不登校や中途退学等を経験した生徒が自分の目標を見つけ、チャレンジする高校
- ・ 学力検査や中学校の調査書によらず、生徒の意欲を重視した入学者選抜を実施
- ・ カウンセリングや教育相談の充実等、心のケアに配慮したきめ細かい指導

六本木高校、大江戸高校、世田谷泉高校、稔ヶ丘高校、桐ヶ丘高校、小台橋高校、立川緑高校

## エンカレッジスクール（6校）〈全日制・学年制〉

- ・ 小・中学校で力を発揮しきれずにいる生徒が、社会生活を送る上で必要な**基礎的・基本的学力**を身に付けることを目的とした高校
- ・ 学力検査によらず、中学校の調査書や面接、小論文等による入学者選抜を実施
- ・ 1年次には30分授業を実施するとともに、二人担任制を導入。多彩な体験学習や日常の取組を重視した評価も実施

蒲田高校、中野工科高校、練馬工科高校、足立東高校、東村山高校、秋留台高校

## 通信制（3校）

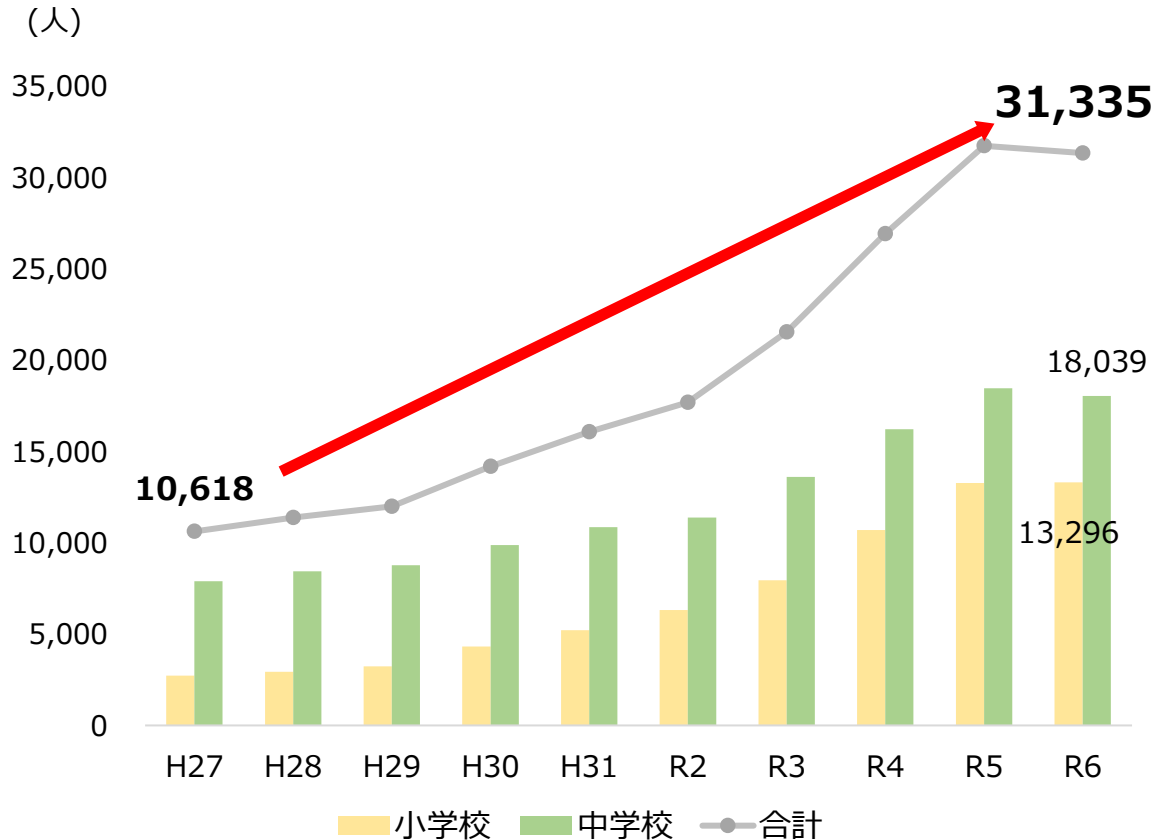
- ・ 報告課題(レポート)、面接指導(スクーリング)、単位認定試験等の方法により単位を認定する高校
- ・ 近年は、**生徒の自学自習の伴走支援**に向けたデジタルの活用や専門学校等と連携した**学びの選択肢の充実**を推進

一橋高校、新宿山吹高校、砂川高校

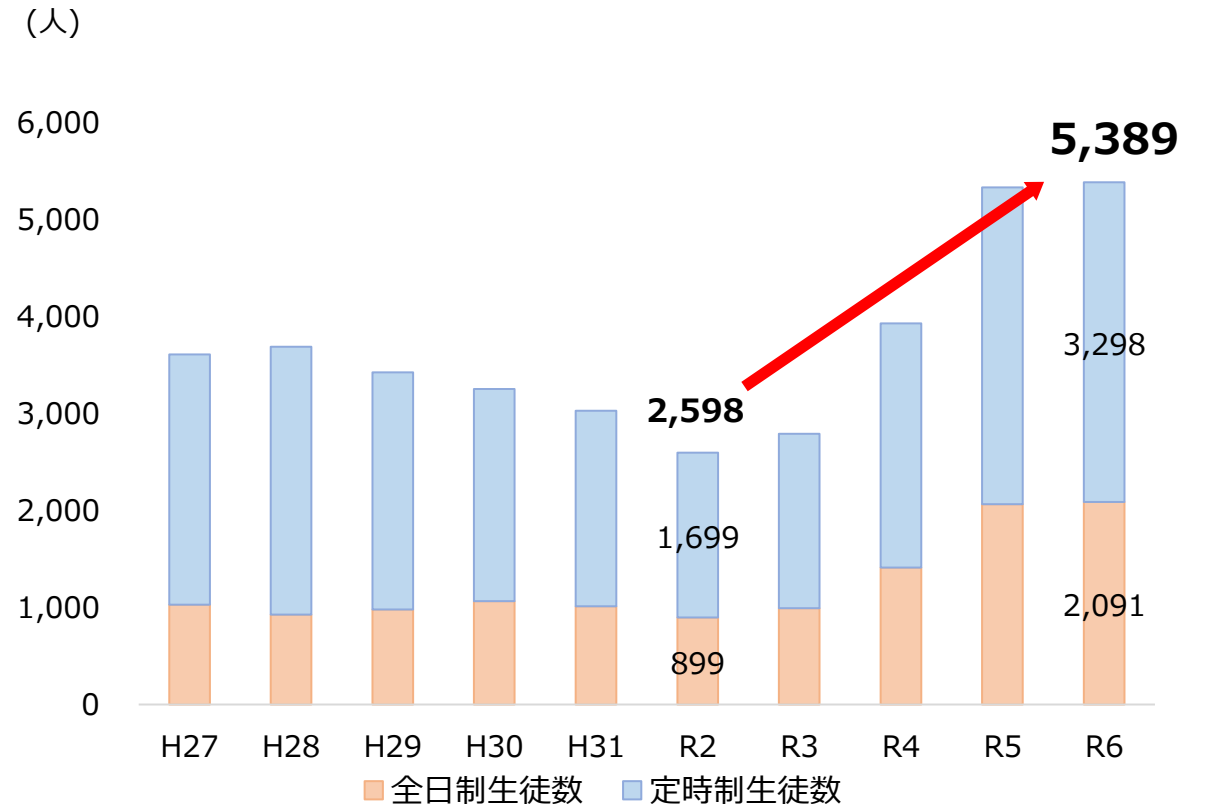
# 多様な背景や支援ニーズを抱える生徒の現状（不登校①）

- 都内公立小学校・中学校における不登校児童・生徒数は、令和5年度まで11年連続で増加
- 都立高校における不登校生徒数は、減少傾向であったが令和3年度から増加

## 都内公立小・中学校における不登校児童・生徒数の推移



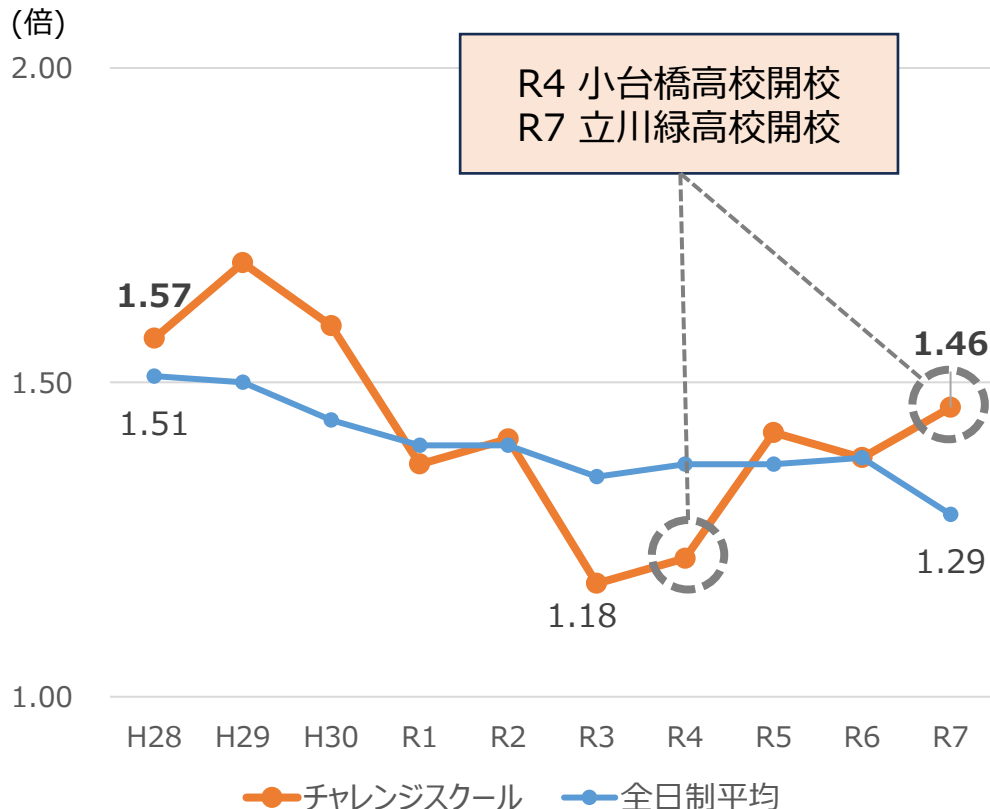
## 都立高校における不登校生徒数の推移



# 多様な背景や支援ニーズを抱える生徒の現状（不登校②）

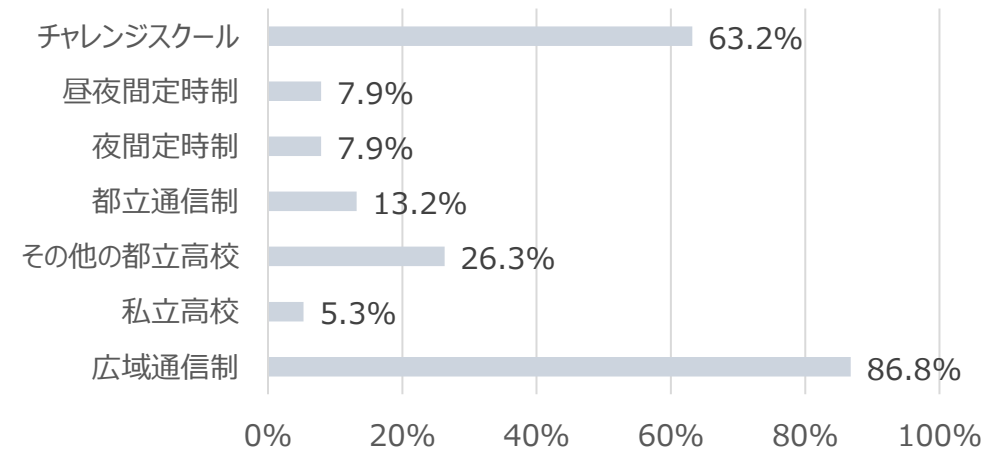
- チャレンジスクールについては、近年2校を新規設置している中でも、応募倍率は上昇
- チャレンジスクール以外には、通信制課程を志望する生徒も多数

## チャレンジスクールの応募倍率



## 通信制高校に対するニーズ

- 中学校における不登校経験のある生徒の主な進学先  
(中学校長が、自校の不登校経験のある生徒を主に送り出している高校を複数回答)



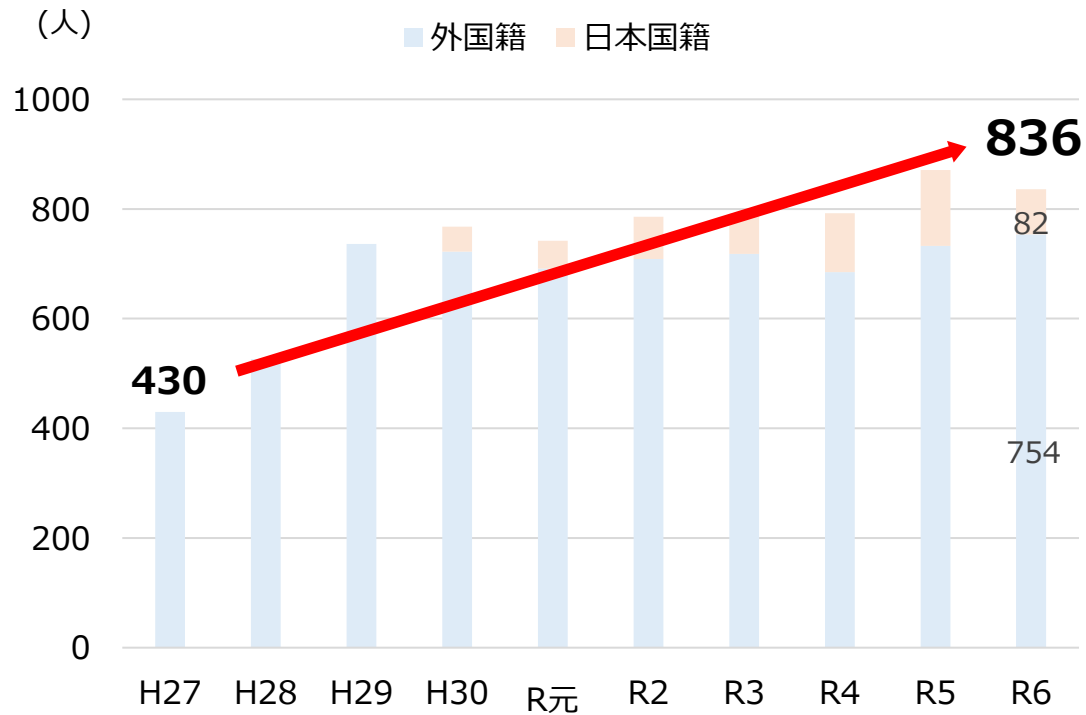
- 中学校関係者からの声  
「対人関係や集団生活が難しい生徒は最初から通信制を第一志望にしている。」

中学校長対象「不登校経験のある生徒についてのアンケート」（令和5年）から作成

# 多様な背景や支援ニーズを抱える生徒の現状（日本語指導・特別な支援）

- グローバル化の進展等に伴い、日本語指導が必要な生徒は増加傾向
- 発達障害のある生徒など特別な支援が必要な生徒は、都立高校にも一定数在籍

## 日本語指導が必要な生徒数の推移



文部科学省及び東京都教育委員会「日本語指導が必要な児童・生徒等受入状況調査」より  
※日本国籍生徒数は平成30年度から調査開始

## 特別な支援が必要な生徒

都立高校における発達障害の可能性のある生徒の在籍状況

	生徒数(a)	発達障害の可能性のある生徒の在籍数(b)	在籍率(c=b/a)
全日制	119,274人	2,997人	2.5%
定時制	9,761人	1,403人	14.4%
計	129,035人	4,400人	3.4%

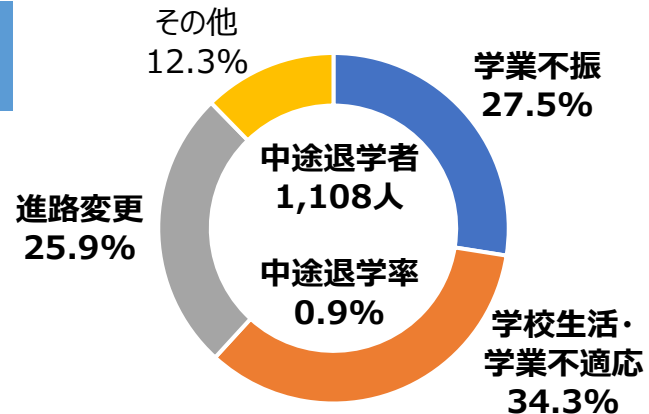
「都立高校における発達障害教育の手引き～誰一人取り残さない学校づくり～」  
(令和6年2月策定) から作成

# 多様な背景や支援ニーズを抱える生徒の現状（中途退学の理由等）

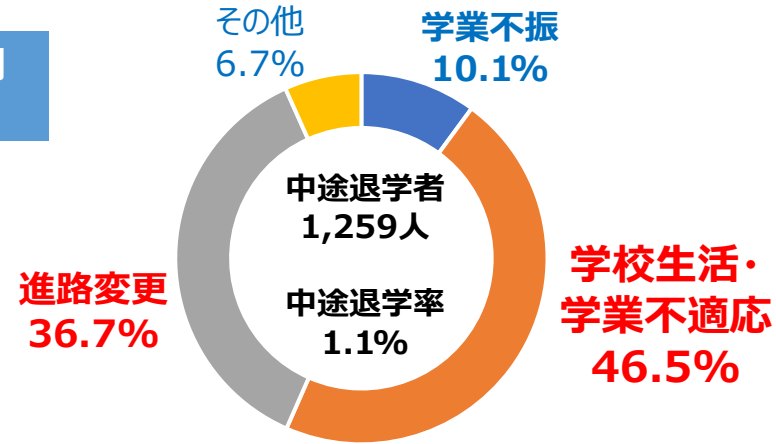
- 学業不振(いわゆる「勉強についていけない状況」)を理由として、中途退学していく生徒が減少
- 一方、「学校生活」や「学び」自体に適応できないことを理由として、中途退学していく生徒が増加

## 都立高校における中途退学者数・理由

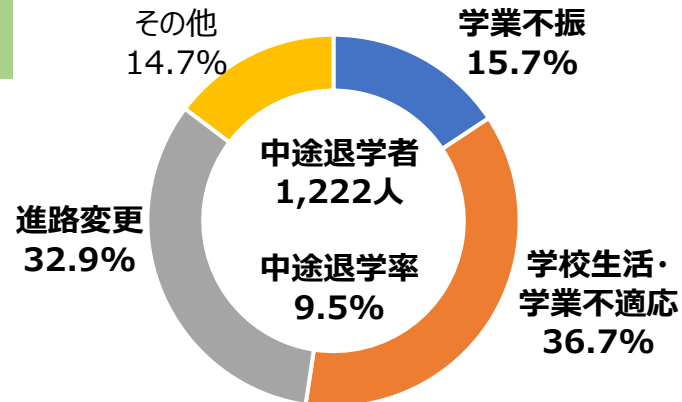
全日制  
(H27)



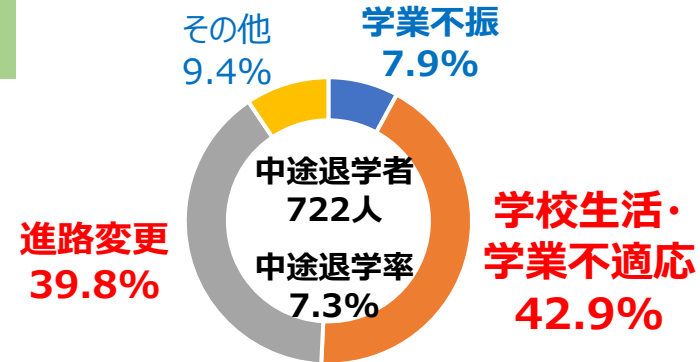
全日制  
(R6)



定時制  
(H27)



定時制  
(R6)



「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」から作成

・「学業不振」  
高校入学後、学力不足のために授業の進度についていけず退学した者

・「学校生活・学業不適応」  
当該学校、高校生活又は授業に対する熱意、興味、関心、適応等の不足や喪失を原因として退学した者

・「進路変更」  
在籍する高校以外の進路を積極的に希望し、退学した者

・「その他」  
「病気・けが・死亡」や「経済的理由」、「家庭の事情」、「問題行動等」等により退学した者

# 都教育委員会の取組（「都立高校におけるチャレンジサポートプラン」の策定）

## 関係する方針等

- 令和3年3月 「東京都教育施策大綱」を策定。「誰一人取り残さず、すべての子供が将来への希望を持って、自ら伸び、育つ教育」を東京の目指す教育として設定
- 令和6年3月 「東京都教育ビジョン(第5次)」を策定。「誰一人取り残さないきめ細かな教育の充実」を施策の柱の一つに設定  
このほか、「都立高校の魅力向上に向けた実行プログラム<令和6年更新版>」を取りまとめ

## 「都立高校におけるチャレンジサポートプラン」のポイント

- 令和6年10月策定  
計画期間は3か年(令和7年度～令和9年度まで)
- 都立高校における困難を抱える生徒は増加し、生徒のニーズも多様化していることを踏まえた支援の計画
- 支援の取組を推進する上での観点
  - (1) 生徒が相談できる体制の充実
  - (2) 生徒の事情や悩みに応じた適切な支援
  - (3) 多様な生徒の受入環境の充実各支援策の実施に当たっては、関係者が様々な側面から連携

# 都教育委員会の取組（多様な背景や支援ニーズを抱える生徒への支援）

## 不登校経験のある生徒や学び直しのニーズがある生徒への支援

### 都立学校「自立支援チーム」派遣事業の実施

- 困難を抱える生徒を支援し、社会的に自立できるようにするため、就労や福祉の知識・技術を持つユースソーシャルワーカー等で構成される「自立支援チーム」を派遣
- 不登校生徒やヤングケアラーへの支援の中核として貢献

### 校内における別室での指導の推進

- 不登校等が特に課題となっている高校において、教室になじめない生徒に対し、別室で、支援員等が学習指導や相談を行い、また、デジタル教材を活用した学びも提供

### 「校内居場所カフェ」の設置

- 校内に「校内居場所カフェ」を設置し、ユースソーシャルワーカーが一人ひとりの生徒に応じた支援を実施
- 既存2校に加え、一部のチャレンジスクール等での拡大を検討

### 学び直しのための基礎科目・少人数指導

- エンカレッジスクールやチャレンジスクール等で基礎的な科目を設置
- 習熟度別の少人数指導を通して、生徒の学習状況に合わせたきめ細かい指導を実施

### 学力向上研究校（校内寺子屋）事業

- 義務教育段階の基礎学力の定着状況が十分ではない生徒に対し、放課後等に学習の場を提供
- 外部人材を活用して個に応じた学習を支援することにより、学業不振に関連した中途退学を防止

### 通信制高校の受入規模の拡大等

- 応募状況等を踏まえ、通信制の受入規模を拡大
- 従来は4月から開始していた通信制の入学者選抜について、定員の一部に係る選抜を2月に前倒し

チャレンジスクールやエンカレッジスクール、通信制高校を中心に、支援体制や学習・教育環境を充実

# 都教育委員会の取組（多様な背景や支援ニーズを抱える生徒への支援）

## 日本語指導

### 日本語指導推進ガイドラインの活用

- 都内の外国人児童・生徒等教育の基本的な方針や外国人児童・生徒等に関する諸課題への解決策を示した教職員向け手引き

### 春期・土曜日本語講座の実施

- 入学時点で日本語の能力が入門・初級レベルの新入生を対象に、春期・土曜に集中し、日本語を学習する講座を実施
- 教科学習につながる日本語を早期に学び始め、高校生活を円滑に開始できるよう、中学からの接続を支援

### 在京外国人生徒等の受入

- 在京外国人生徒等を対象とした入学者選抜を実施する学校の設定
- 今後、多様な生徒がともに学ぶ特徴を生かし、語学力の育成に加え、異文化・多様性への理解を深める指導を実施する「ダイバーシティ推進校」を新たに指定し、募集枠も拡大

## 発達障害教育・特別支援

### 発達障害教育の充実

- 校内で行う通級による指導<sup>(※)</sup>や学校外で行うコミュニケーションアシスト講座により、発達障害のある生徒に係る困難を軽減

※ 大部分の授業を通常の学級で受けながら、一部の授業について障害に応じた特別の指導を特別な場で受ける指導形態

- 経験やノウハウを有する特別支援学校が、地区ごとに都立高校の発達障害教育を総合的にサポート

### 障害のある生徒への支援体制の構築

- 都立高校に在籍する障害のある生徒への支援に向け、インクルーシブ教育推進拠点校に「インクルーシブ教育推進教員」を配置し、地区拠点校及び都立高校と連携した新たな体制を構築

在京外国人等生徒等に係る入学者選抜実施校だけでなく、都立高校全体で、指導や支援の体制を充実

# 本テーマにおける主な論点

- 多様な支援を必要とする生徒は、都立高校全体で増加
  - 中途退学の理由では、学校生活への不適應など、「学校や教室での学び」から距離を取る生徒が増加
- ➡ 今後、チャレンジスクールやエンカレッジスクール等の充実とともに、都立高校全体でも多様な生徒を支える仕組みが必要  
これらは、どのような考え方・視点で構築していくべきか。

## それぞれの論点

### ① チャレンジスクールについて

不登校等を経験した児童・生徒が増えている中、受入環境の更なる充実や将来の社会的自立に向けて、どのような考え方により取り組んでいくべきか。

### ② エンカレッジスクールについて

学業不振による中途退学が減少し、主たる課題が「学校生活への不適應」等に移っている。生徒の多様化が進む中、教育環境をどのように充実させていくべきか。

### ③ 通信制高校について

多様な学び方を求める生徒とともに、不登校等を経験した生徒のニーズにも応える学びについて、どのように充実させていくべきか。

### ④ 都立高校全体における、生徒を支える仕組みについて

都立高校全体において、多様な支援を必要とする生徒をどのような形で支え、つながり続けていくべきか。

# 3 都の動き

---

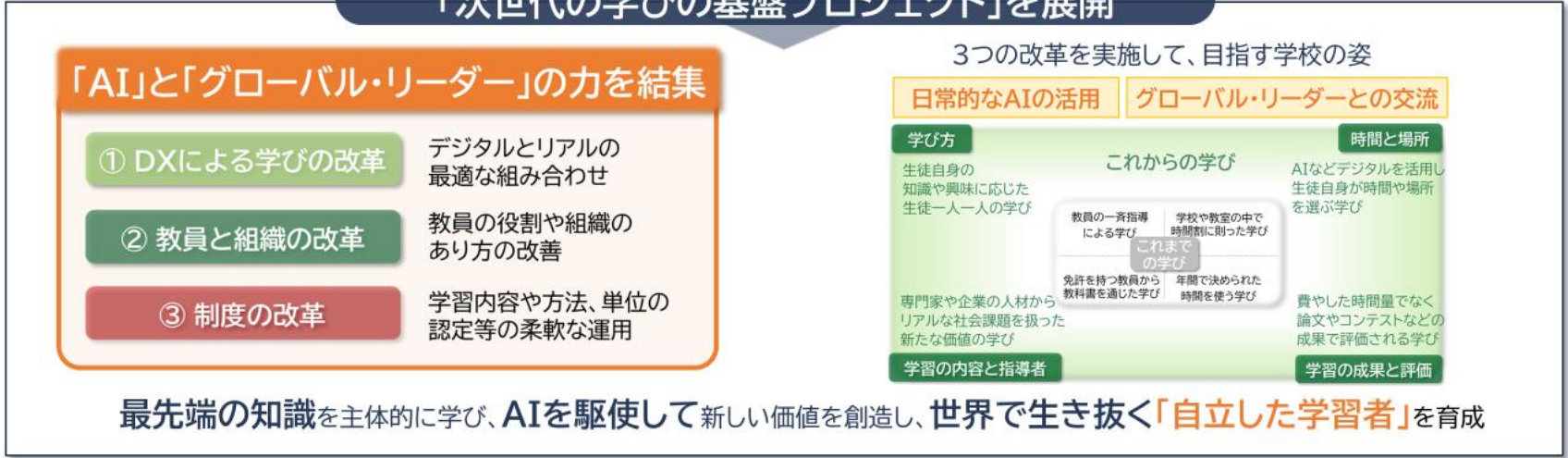
# 「新たな教育のスタイル」について

令和8年2月19日教育委員会報告資料

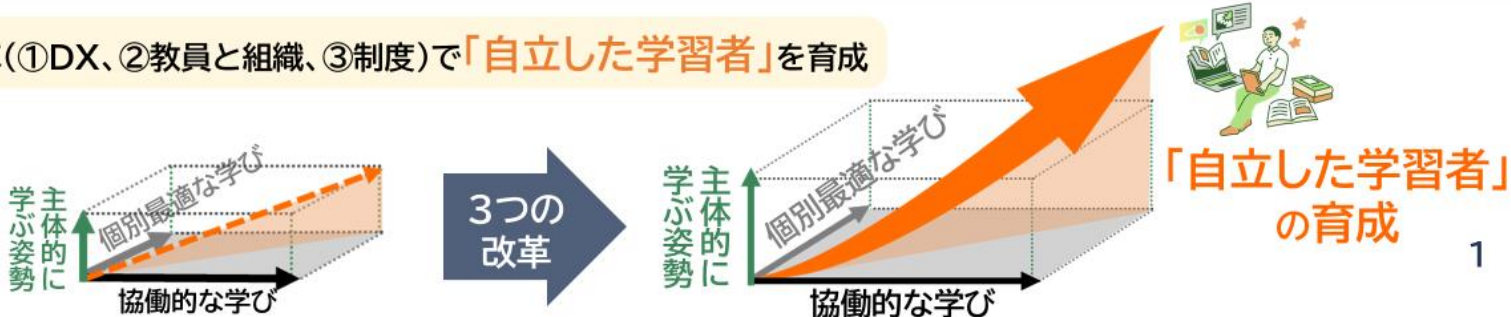
## 「新たな教育のスタイル」の確立に向けた「次世代の学びの基盤プロジェクト」 中間の取りまとめ(案)について(概要)



### 「次世代の学びの基盤プロジェクト」を展開



3つの改革(①DX、②教員と組織、③制度)で**「自立した学習者」**を育成



# 「新たな教育のスタイル」について

## ① DXによる学びの改革

- ✓ AI等で、きめ細かく高レベルな知識を提供
- ✓ デジタルツールで学ぶ時間や場所の選択を実現

「AI」 × 「グローバル・リーダー」

デジタルの教育 × リアルの教育

新たな学びを支える仕組み

- ✓ 興味関心に応じた校外のリアルの中で探究
- ✓ 実体験による教科横断的な知識の活用  
リアルな教育の効果を、より一層高めるため  
デジタルツールで情報共有する工夫

デジタルの教育とリアルな教育の学習状況を  
AIを活用し、デジタルテストや学習管理システム(LMS)等で把握し、教育効果を高める仕組みの展開

## ② 教員と組織の改革

「自立した学習者」を育成する  
「学び続けて、成長し続ける教員」

- ✓ 教育課程をAIやグローバル・リーダーの活用など新しい視点でデザインする力
- ✓ 生徒一人一人に伴走し、授業を計画しより効果的に実施する力

大学や研究機関からの指導者等の導入

海外のグローバルで最先端の知見の活用

「学び続けて、成長し続ける教員」  
が密接に連携した教育

- AIを活用した授業デザイン
- 資質・能力の研究
- 新たな研修の開発
- AIやLMS等の取組の相乗効果を研究

研究 実践

- コーチング・ファシリテーション研修
- デジタルとリアルを融合した新しい授業の研修実施
- グローバル・リーダーと連携した授業の実践



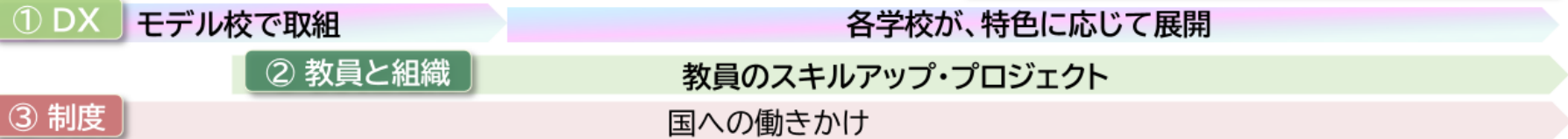
## ③ 制度の改革

国に働きかけ、目指す学校の姿を実現

検討のポイント(例)

AI等のデジタルの仕組みの教育への反映方法、学校に通うスタイル  
科目修了の単位認定の仕組み、生徒の学びの成果の評価方法  
外部の専門人材活用のための免許制度 等

## 今後の、プロジェクトを展開する都立高校の考え方



# 「新たな教育のスタイル」について

令和8年2月19日教育委員会報告資料

港区白金地区「新たな教育のスタイル」の実施校(仮称)の構想(案)について(概要)  
デジタルの力で、学びを究める進学校 ～自分を磨いて、白金から世界へ～

## 新たな学校の開校と、本校の位置づけ

都立新国際高等学校(仮称)は、その理念や専門家意見を踏まえ、「新たな教育のスタイル」を実施する学校としてバージョンアップ  
「新たな教育のスタイル」を本格的に実現する基幹校として、令和11年度に開校

## 育成する人材

柔軟で自由な発想で、世界に飛び出し、生き抜く人材

必要な仕組み 自らの学びを設計し、「AI」と「グローバル・リーダー」の力を結集して最後までやり抜ける学びの仕組み

多様な価値観を受け入れ、新しい未来を創るイノベーター人材

必要な仕組み 国際交流、スタートアップとの連携等により国際社会の貢献に資する自分の「究めたい」を徹底的に学べる環境

## 進路イメージ

グローバルに貢献できる先端人材  
国内外の最難関大学(リベラル・理工等)へ進学

新たな価値を創造するイノベーター人材  
高校時代に究めたことを一層研究を続けていく

## 教育方針

デジタルの力で、学びを究める進学校 ～自分を磨いて、白金から世界へ～

### 自己デザイン

- ✓ 興味・関心を起点に自ら選び、決める力
- ✓ 幅広い視野と柔軟な思考力

### 創造

- ✓ 論理的思考力、本質を見抜く力
- ✓ 興味を起点とした新たな価値創出

### 協働

- ✓ 多様な価値観を柔軟に受け入れ
- ✓ 社会参画意欲、新しい未来の創造

「AI」と「グローバル・リーダー」の力を結集して「プラチナ・カリキュラム(仮称)」で実現

# 「新たな教育のスタイル」について

## 「プラチナ・カリキュラム(仮称)」の3つの特徴

### 01 自己デザインによる学びを叶える仕組み

「AI」や「グローバル・リーダー」の力を結集し、リアルな学びをデジタルで柔軟にするハイブリッド型教育

「通学」と「いつでもどこでも」を  
組み合わせたクォーター型運用



「AI」等のデジタルを活用

確かな学力を身に付けて「究めたい学び」へ



「グローバル・リーダー」からの学びの機会を創出

### 02 自分の「究めたい」学びを深める仕組み

知識を課題解決  
学習に活かして  
究める  
探究的な学習

相乗効果

「AI」の力も活用した  
事前学習してから  
授業で協働して深める  
反転した学習

学習方法を学ぶ → 実践 → 発展 を繰り返す

### 03 生徒の学びを支える伴走の仕組み

リアル

教員は生徒の  
学びの伴走者

生徒が中心になる  
コーチング、ファシリテーションを重視

デジタル

学習の可視化  
LMSの活用

AIも活用し、  
学びの状況を生徒、教員が共有

リアル

パーソナル  
メンターの導入

外部と連携し、1on1で相談可能

## 4 意見交換

「都立高校に求められる役割」について

## 高校教育改革に関する基本方針(グランドデザイン)【概要】 ～2040年に向けた「N-E.X.T.(ネクスト)ハイスクール構想」～

(別添1)

New Education, New Excellence, New Transformation of High Schools

### 1. グランドデザインの背景・必要性

- ✓ AIの実装などデジタル技術の目まぐるしい発展  
2040年には、**少子高齢化、生産年齢人口の減少、地方の過疎化**が一層深刻化  
→現在の人材供給トレンドが続けば、**労働力需給ギャップ**が発生  
(事務職は余剰、AI・ロボット関係、いわゆる理系人材は不足)
- ✓ 将来を正確に予測することは難しく、どのような未来が訪れるか分からない  
→生徒それぞれの**多様な個性やニーズ、興味・関心**に応じた学びを生かした**自己実現**を支え、**生徒の可能性を広げ能力を伸ばす**  
→全ての高校生が**家庭の経済状況等に左右されることなく**、希望する大学等への進学や就職等をし、それが**個人の幸福**につながり、ひいては、**我が国の経済・社会の基盤を強いもの**としていくことにつながる



### 2. 高校改革の方向性～2040年に向けた高校の姿～

視点1 不確実な時代を自立して生きていく 主権者として、AIに代替されない能力や個性の伸長	視点2 我が国や地域の経済・社会の発展を 支える人材育成	視点3 一人一人の多様な学習ニーズに対応 した教育機会・アクセスの確保
<p><b>学びの在り方の転換 (New Transformation)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ リアルとデジタルの良さを組み合わせつつ、「好き」を育み、「得意」を伸ばす機会を確保し、生徒の実態を踏まえた柔軟な教育課程の実現</li> <li>✓ スクール・ミッション、スクール・ポリシーを踏まえた<b>教育活動の改善、公表</b></li> <li>✓ <b>高校教育と一貫した大学教育改革</b>(主体的・自律的な学修のための環境構築、出口における質保証等)</li> </ul>	<p><b>最先端を学ぶ高校の特色化・魅力化 (New Excellence)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ <b>探究・文理横断・実践的な学び、STEAM教育、産業界と協働した専門高校の学びの充実</b> → <b>理数・文系的素養やAIを使いこなす力を身に付け、社会で活躍するロールモデルを体感</b></li> <li>✓ 各高校の<b>特色化・魅力化</b> → <b>学科構成の見直し、専門高校の機能強化・高度化、グローバル人材の育成</b> → <b>「普通科」の在り方の転換、即戦力の人材と進学を見据えた高度専門職人材の育成</b></li> </ul>	<p><b>学ぶ機会・アクセスの確保 (New Education)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ <b>全国どこにいても多様で質の高い学びを保障し、地方の生徒はもとより誰一人取り残されず、全ての生徒の可能性を最大限引き出す</b> (<b>地理的アクセスの確保、都道府県の実情等に応じた学校配置・規模の適正化、小規模校を含む遠隔授業等の推進</b>)</li> <li>✓ <b>通信制高校の教育の質の確保・向上</b></li> <li>✓ <b>不登校生徒への学習支援、特別支援教育や日本語指導が必要な生徒への教育の充実</b></li> </ul>

3つの視点を重視しながら、更なる高校改革を進め、N-E.X.T.ハイスクール構想を実現する。  
高校から大学・大学院に至るまでの一貫した改革により、強い経済や地域社会の基盤となる人材を育成する。

## 3. N-E.X.T.ハイスクール構想の中核となる高校支援



※交付金等の構築に先立ち、高校教育改革のための基金を都道府県に造成し、N-E.X.T.ハイスクール構想の実現のために、パイロットケースとして先導的な学びの在り方を構築する高校（改革先導拠点）を創設。

### 新しい学校のイメージや取組例

専門高校の機能強化・高度化 (アドバンスト・エッセンシャルワーカーの育成等)	普通科改革を通じた高校の特色化・魅力化 (文理の双方の素養を有する人材の育成等)	地理的アクセス・多様な学びの確保
<p><b>(学校のイメージ)</b>                      地域発のイノベーションを興すことのできる人材等の育成を目指し、理論と実践の往還によるカリキュラムの実施等に取り組み、必要な施設設備の高度化が図られた学校</p> <p><b>(取組例)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ ビジネス経験の必修化</li> <li>✓ ものづくりから流通まで一体的な学びの実践</li> <li>✓ 「高校版企業寄附講座」等の実践やそれを前提とした進学・就職機会の確保</li> </ul>	<p><b>(学校のイメージ)</b>                      文理にとらわれない幅広い教養等を備えた新しい価値を創造する人材等の育成を目指し、実社会につながる生きた授業の実践等に取り組み、必要な施設設備の高度化が図られた学校</p> <p><b>(取組例)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 実社会につながる生きた授業の実践</li> <li>✓ 高度実験環境を核とする理数探究拠点整備</li> <li>✓ 探究型授業研修の充実による教師のスキル向上、探究伴走支援専門チームの構築</li> </ul>	<p><b>(学校のイメージ)</b>                      学校の枠を超えて多様な人々と協働し、社会の課題を主体的に探究・解決できる人材等の育成を目指し、柔軟で質の高い学びの実践等に取り組み、必要な施設設備の高度化が図られた学校</p> <p><b>(取組例)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 学校間連携や遠隔授業等を活用した教育機会の確保</li> <li>✓ 学校と地域の関係機関の連携・協働の強化による学習環境の提供</li> <li>✓ 他の学校種との連携の充実</li> </ul>

これらの取組の一環として、留学支援を含むグローバル人材育成支援や、学校と地域が連携・協働した学力向上・学習支援などについて取り組む。

### 2040年までに達成を目指す目標

- |   |   |   |
|---|---|---|
| <p><b>【職業教育の高度化・魅力の強化関係】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の産業界等と連携・協働した取組を行う専門高校:100%</li> <li>・少子化傾向においても専門高校の生徒数を現在と同水準</li> </ul> | <p><b>【普通科の在り方の転換・魅力の強化関係】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文理横断的な学びに取り組む普通科高校:100%</li> <li>・普通科でいわゆる文系と理系の生徒の割合:同程度</li> </ul> | <p><b>【多様な学びの確保関係】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学びの状況に関する生徒の肯定的な評価の向上</li> <li>・高校卒業段階の進路未決定者の割合の半減</li> </ul> |
|---|---|---|

# 専門部会の議論を踏まえた国際金融教育に関する論点

# 専門部会の議論を踏まえた国際金融教育に関する論点

- <ブランディング> 国際金融教育は、社会や世界とつながる学びとして商業教育の新たな特色となり、商業高校のブランド力向上に寄与するのではないか。
- <IB教育の導入> 国際金融教育の質を高める観点からは、探究的学びや国際的視野を育むことを特徴とするIB教育の手法を活用することが有効ではないか。  
  
IB教育を導入するに当たっては、日本語で思考を深めつつ世界とつながることができる日本語DPを活用し、生徒が挑戦しやすい環境の整備が必要ではないか。
- <資質・能力> 国際金融に関する学びを高度化するためには、ハイレベルな英語力に加えて、数学や情報等の科目の強化が必要ではないか。
- <実践的学び> 実践的な国際金融教育の充実には、国際金融の最前線で活躍する研究者や専門家等から直接学ぶ機会の確保が重要ではないか。